

シリーズ  
成田市

50年

小林市政の船出(最終回)  
(平成15~16年)

平成15年4月27日、市長選挙で小林攻氏が初当選。市長就任ならびに臨時市議会において、「市民が主役のまちづくりを」を基本理念として、市民にとって身近な市政、市民に分かりやすい市政、市民が納得する市政を推進するとの所信を表明しました。

そのためにタウン・ミーティングを開催し、市民の意見を聞く機会の拡充を図る一方、空港問題・まちづくり・環境問題など七つの重要課題を挙げ、小林市政がスタートしました。

# 市民が主役のまちづくりを目指して

## タウン・ミーティングの開催

市民の関心は合併問題

「市民参加型の市政」を提唱する小林市長。日ごろ市政に対して感じていること、希望すること、考えていることなど、市民の生の声を直接聞き、話し合いをするタウン



タウン・ミーティングで市政が身近に  
(平成15年8月22日、公津公民館)

ン・ミーティング(市長と市民とのつどいが、昨年の8月10日を皮切りに、これまで21回開催され、延べ1,150人の市民の皆さんが参加しました。

参加者からは、合併問題、空港問題、新ごみ処理施設、交通問題、印旛沼の浄化を含む環境問題、コ

ミュニティ施設の整備など、市民参加のまちづくりのためのさまざまな分野への意見や提言、質問が出されました。



中

中でも一番の関心事は合併問題。このために開かれたタウン・ミーティングは、実に14回。事務局で用意した椅子が足りなくなる会場が見られるなど、いかに市民の関心が高かったかがつかえました。合併の枠組み、合併方式、合併による効果とサービスの低下のおそれ、市町村合併に関する資料の提供が不十分ではないかなど、さまざまな意見や疑問が出されました。

## 市民アンケートを実施

平成15年9月定例市議会で、成田市と隣接し生活圏と空港圏の合致する2市4町を最大の枠組みと



タウン・ミーティングで出された意見や提案は広報の特集号や臨時号で発表

する基本的な考え方を表明。翌10月には合併対策課を新設し、その後のタウン・ミーティングや地区別懇談会、職員による出前講座、合併に関する冊子の配布、広報なりたへの掲載や臨時号の発行など情報の提供と幅広い意見の集約に努めました。

そして11月には市町村合併に対する市民の意見・意向を、1万人の市民にアンケート調査を実施しました。

下総町・大栄町との合併に関する協議が本格的に

成田市を取り巻く市町村合併問題は、小林新体制の誕生後も市民も含め空港周辺の1市9町から再度合併の要望が寄せられました。

そこで小林市長は9月、市町村合併に関する基本的な考え方を示し、2市4町(成田市・富里市・下総町・大栄町・多古町・芝山町)を最大の枠組みとし、合併方式は編入方式としました。

その後それぞれの市町で合併に関する議論が盛んになる中、平成16年1月8日、2市4町の首長会議が開催され、本市が提示した編入方式に対し下総町と大栄町が同調し、1市2町で合併に関する協議が進められることになりました。2月には各市町の議会で合併協議会設置の議案が可決され、3月1日、成田市・下総

町・大栄町合併協議会が設置され合併に関する協議が本格的にスタートしました。

合併協議会では1市2町が対等な立場に立ち、それぞれの良さを活かし、行政改革や新市住民への行政サービスの向上を図るため協議・調整をしています。同時に新しいまちづくりについて、住民説明会の実施や合併協議会だよりの発行、ホームページの開設など情報の提供や住民意向の把握や反映に努めながら進めています。



成田市・下総町・大栄町による第1回合併協議会(平成16年3月6日)

### 市制施行50周年

## テーマは「明日の輝き」成田から」

昭和29年3月31日、観光と農業のまちを目指し、第一歩を踏み出した成田市は、今年で市政施行50周年を迎えました。今日では国際空港をもち、世界に開く都市として大きく変ぼうを遂げました。

50周年を祝う記念行事のメインテーマは、「明日の輝き」成田から。国際空港都市にふさわしい人・物・情報・文化などの先進的な拠点として更なる発展への決意を象徴したものです。

記念行事は平成16年2月8日の消防出初式を皮切りに、スポーツ、音楽、芸術鑑賞などさまざまです。4月18日には市民の発案による山車まつりが行われ、市役所前の広場や駐車場は大勢の市民が集まり50周年の気運を大いに盛り上げました。

市民の熱気に包まれたオープニングセレモニー・山車まつり(平成16年4月18日)



ちょうちんで飾られたJR成田駅前の歓迎塔

## なかよしトンネルが全面開通

囲護台踏切立体交差化事業

開かずの踏切といわれたJR囲護台踏切、これを解消するため、平成3年から立体交差化の工事が行われ、平成15年7月5日の成田祇園祭に全面開通し、沿線住民の数十年來の願いがかないました。

この開通によって慢性的な交通渋滞が緩和され、表参道(市街地)と成田ニュータウンは最短で結ばれることになりました。

地元の小学生たちが名付け親となったなかよしトンネルは、路線の東側と西側の人々が「仲良く」という子どもたちの願いが込められています。



なかよしトンネルの開通式(平成15年7月5日)